



井の頭自然文化園開園 80 周年記念イベント

飼育係からのお便り

園内で見られる動物について飼育係がアピールします！



動物園 (本園)

今月のピックアップ動物は…

- 1 アカゲザル
- 2 ニホンカモシカ

アカゲザル 強いのはどのこ？

当園に13頭いるアカゲザル。1つの家族として群れを作り、生活しています。群れの中では明確な「順位」が決まっており、身体の大きさだけでなく、親の順位の高さや産まれた順番などによってそのサルも順位が決まります。自分より強い相手にはエサや場所をゆずったり、ケンカの時には自分より強いサルを呼んで味方につけたり。

サルたちの様子をじっくり見て、その「サル関係」を予想してみてください。



群れでくらすアカゲザル

ニホンカモシカは目が4つ？

ニホンカモシカの目の下には、眼下腺と呼ばれる腺があります。「カモシカは目が4つある」と言われることもあるくらい、個体によってはこの眼下腺が目に見間違えるくらい大きいこともあります。

この眼下腺からは、匂いのついた液がにじみ出ています。野生では単独でくらすカモシカはこの液をいろいろな場所に擦りつけることで、自分の「なわばり」を主張していると言われています。



目の下にあるのが「眼下腺」

これからの井の頭自然文化園

今年で開園80周年をむかえた井の頭自然文化園。これから90年、100年という節目に向けて歩みを進めていきます。

これまでの80年という長い歴史をふまえ、時が経っても変わらない優しく穏やかな文化園らしい雰囲気大切にしながら、動物にとっても、来園された皆様にとっても、よりよい場所であり続けるため、職員一同努力してまいります。このお便りを手に取られた皆様には、また来られた際に、文化園が今後どのように歩いていくのかを共に感じていただければと思います。



文化園 80年のあゆみ

モクズガニ ふさふさな毛は何のため？



モクズガニ

川の上流から下流にまで広く生息するモクズガニ。ツガニ、カワガニ、ヤマタロウなど、多くの呼び名があり、古くから各地で食用としても親しまれてきました。

そんなモクズガニの最大の特徴は、はさみにあるふさふさした長い毛です。一体、この毛は何のためにあるのでしょうか。特にオスの毛の方が目立つので、求愛時にオスがメスにアピールするため、また、名前由来が水草(藻)をつけているように見えるためであることから、藻を食べる獲物をおびきよせるため等々。諸説ありますが、じつはよく分かっていません。あなたはどうか考えますか？

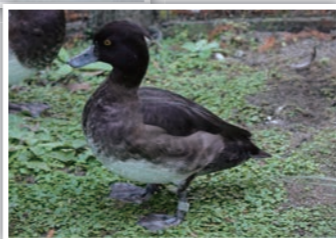
潜るカモと潜らないカモ

井の頭池には、冬になると越冬のために様々なカモの仲間が飛来します。カモには、水に潜ってエサを食べるカモと、潜らずにエサを食べるカモがいます。そして足の付き方を見ると区別することができます。

ヒドリガモは潜らないカモで、足は体の中心についており、陸上では上手に歩き、水辺では泳ぎながら水面に浮いた水草を食べます。一方、キンクロハジロなどの潜るカモは、足が体の後方にあるので、水中では上手に水をけて泳ぐことができますが、陸上での歩行はあまり得意ではありません。



水に潜らないヒドリガ



水に潜るキンクロハジロ



- 1 アカゲザル
- 2 ニホンカモシカ
- 3 モクズガニ
- 4 ヒドリガモ
キンクロハジロ

公式サイト、東京ズーネットでも最新情報をご覧ください。
東京ズーネット
TOKYO ZOO NET
<https://www.tokyo-zoo.net/>



水生物園 (分園)

今月のピックアップ動物は…

- 3 モクズガニ

- 4 ヒドリガモ・キンクロハジロ

今月のピックアップ動物は番号の場所で見られます

あとがき

開園80周年記念として5月から毎月発行してきた本誌も、12月で最終号となります。「動物の面白いポイント」を飼育係の目線でお伝えすることで、文化園の動物たちをより身近に感じていただけたら…と、職員一同力を合わせ、この「お便り」を作ってまいりました。この「お便り」を通して、動物の持つ魅力について、皆さまに1つでも新たな発見があれば幸いです。これからも井の頭自然文化園を、どうぞよろしくお願いたします。



ニホンカモシカ

英名 Japanese Serow

学名 *Capricornis crispus*

分類 偶蹄目ウシ科